

- 血栓薬内服患者におけるヘパリン置換法下での大腸内視鏡的粘膜切除術後出血の検討. JDDW2013. 東京, 2013年10月11日.
- 28) 渡辺 守: 潰瘍性大腸炎の治療における医師と患者の意識比較. JDDW2013. 東京, 2013年10月9日.
- 29) 渡辺 守: 新ガイドライン作成の基本コンセプト. JDDW2013. 東京, 2013年10月9日.
- 30) 齋藤詠子、長堀正和、渡辺 守: IBD に対する内科治療とその限界. JDDW2013. 東京, 2013年10月9日.
- 31) 渡辺 守: 腸からヒト全身を繙く新しい時代の到来. 北海道 IBD 講演会. 札幌, 2013年9月14日.
- 32) 渡辺 守: IBD における治療を考え直す. 岡山 IBD カンファレンス. 岡山, 2013年9月12日.
- 33) 渡辺 守: 東京医科歯科大学消化器内科の活動に見る最新情報の UP to DATE. 文京・小石川地区消化器疾患先端医療セミナー. 東京, 2013年9月9日.
- 34) 渡辺 守: 炎症性腸疾患: 最新の知見と治療戦略. 平成 25 年度日本消化管学会教育集会. 東京, 2013年9月8日.
- 35) 渡辺 守: IBD 診療の進歩と近未来像- 治る時代へ -. 第 12 回市民公開講座プログラム 炎症性腸疾患の治療をめぐる. 東京, 2013年8月10日.
- 36) 高原政宏、根本泰宏、大島 茂、渡辺 守: 炎症性腸疾患マウスモデルにおける腸炎惹起性 memory stem cell. 第 50 回日本消化器免疫学会総会. 東京, 2013年8月2日.
- 37) 高原政宏、根本泰宏、大島 茂、渡辺 守: 炎症性腸疾患マウスモデルにおける腸炎惹起性 memory stem cell 同定の試み. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 東京, 2013年7月26日.
- 38) 渡辺 守: 炎症性腸疾患における内視鏡を考え直す. 千葉 IBD フォーラム. 千葉, 2013年7月13日.
- 39) 渡辺 守: 炎症性腸疾患の up to date. 日本消化器病学会関東支部 第 22 回教育講演会. つくば, 2013年6月23日.
- 40) 堀田伸勝、土屋輝一郎、渡辺 守: 全小腸マッピング生検検体を用いた網羅的遺伝子発現解析によるクローン病特異的遺伝子の同定. 第 85 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都, 2013年5月10日.
- 41) 齋藤詠子、長堀正和、渡辺 守: 潰瘍性大腸炎 (UC) に対するインフリキシマブ (IFX) の中長期予後の内視鏡的検討. 第 85 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都, 2013年5月10日.
- 42) 岡田英理子、土屋輝一郎、岩寄美智子、堀田伸勝、福島啓太、日比谷秀爾、加納嘉人、大塚和朗、荒木昭博、渡辺 守: 腸管幹細胞を用いた消化管上皮再生. 第 85 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都, 2013年5月10日.
- 43) 上山俊介、堀内亮郎、真栄城剛、浅野 徹、古本洋平、間野真也、村山巖一、石橋史明、外山雄三、港 洋平、村松雄輔、宮本勇治、松田真輝、那須啓一、佐崎なほ子、鈴木伸治、忠願寺義通、藤木和、渡辺 守: EBD 時 EST の ERCP 後膵炎回避における有効性の検討. 第 85 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都, 2013年5月10日.
- 44) 岡田英理子、土屋輝一郎、岩寄美智子、堀田伸勝、福島啓太、日比谷秀爾、加納嘉人、大塚和朗、荒木昭博、渡辺 守: NSAIDs 服用患者における全小腸粘膜の病態学的検討. 第 85 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都, 2013年5月10日.
- 45) 岡田英理子、土屋輝一郎、岩寄美智子、堀田伸勝、福島啓太、日比谷秀爾、加納嘉人、大塚和朗、荒木昭博、渡辺 守: 潰瘍性大腸炎 (UC) に対するインフリキシマブ (IFX) の中長期予後の内視鏡的検討. 第 85 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都, 2013年5月10日.
- 46) Kano Y, Tsuchiya K, Watanabe M: The acquirement of cancer stemness in colon cancer by the Atoh1 protein stabilization. 第 71 回日本癌学会学術総会. Sapporo, 2012年9月20日.
- 47) Tsuchiya K, Kano Y, Watanabe M: The stabilization of Atoh1 protein in colitic cancer induces cancer stemness and chemoresistance. 第 71 回日本癌学会学術総会. Sapporo, 2012年9月19日.
- 48) Kano Y, Tsuchiya K, Watanabe M: New classification based on Atoh1 expression in colon cancer might be useful as Biomarker. 第

- 10 回日本臨床腫瘍学会. Osaka, 2012 年 7 月 27 日.
- 49) Watanabe M: Adult Stem Cell Therapy for Gastrointestinal Diseases. International Ulcer Week 2012. Tokyo, 2012 年 7 月 12 日.
- 50) Kano Y, Tsuchiya K, Horita N, Zheng X, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M: The acquisition of cancer stemness in colon cancer by the Atoh1 protein stabilization. ISSCR2012. Yokohama, 2012 年 6 月 14 日.
- 51) Yui S, Nakamura T, Nemoto Y, Mizutani T, Fukuda M, Nozaki K, Yamauchi Y, Mochiduki W, Zheng X, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, Watanabe M: Regeneration of damaged colon epithelium by transplanted colon Lgr5+ stem cells maintained and expanded in vitro. 第 10 回 幹細胞シンポジウム. Awajishima, 2012 年 6 月 1 日.
- 52) Tsuchiya K, Kano Y, Mizutani T, Yui S, Nakamura T, Watanabe M: The stabilization of Atoh1 protein in colon cancer acquires cancer stemness and chemoresistance. 第 10 回 幹細胞シンポジウム. Awajishima, 2012 年 6 月 1 日.
- 53) Watanabe M: Stem Cells. DDW2012. San Diego, 2012 年 5 月 22 日.
- 54) Nemoto Y, Kanai T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Matsumoto S, Watanabe M: Colitogenic effector memory CD4+ T cells develop TH1/TH17 mediated interstitial pneumonia independent to intestinal bacterial antigens. AGA. San Diego, 2012 年 5 月 22 日.
- 55) Tsuchiya K, Zheng X, Kano Y, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M: Flagellin response via TLR5 on basolateral membrane of primary intestinal epithelial cells is regulated by Notch signaling. DDW2012. San Diego, 2012 年 5 月 22 日.
- 56) Nemoto Y, Kanai T, Matsumoto T, Watanabe M: Colitogenic effector memory CD4+ T cells develop Th1/Th17 mediated interstitial pneumonia independent to intestinal bacterial antigens. DDW2012. San Diego, 2012 年 5 月 22 日.
- 57) Mizutani T, Nakamura T, Morikawa R, Fukuda M, Mochizuki W, Yamauchi Y, Nozaki K, Yui S, Okamoto R, Tsuchiya K, Watanabe M: Real-time analysis of p-glycoprotein-mediated drug transport across primary intestinal epithelial cells three-dimensionally cultured in vitro. DDW2012. San Diego, 2012 年 5 月 21 日.
- 58) Okamoto R, Murano T, Shimizu H, Ito G, Tsuchiya K, Nakamura T, Watanabe M: Notch signaling regulates expression of Gelsolin superfamily genes, Gelsolin and Scinderin, and promotes re-assembly of actin cytoskeleton in human intestinal epithelial cells. DDW2012. San Diego, 2012 年 5 月 21 日.
- 59) Kano Y, Tsuchiya K, Horita N, Zheng X, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M: The acquisition of cancer stemness in colon cancer by the Atoh1 protein stabilization. DDW2012. San Diego, 2012 年 5 月 19 日.
- 60) Fujii T, Naganuma M, Saito E, Nagahori M, Watanabe M: Intravenous tacrolimus therapy can rapidly induce remission in refractory ulcerative colitis. DDW2012. San Diego, 2012 年 5 月 19 日.
- 61) Murano T, Okamoto R, Shimizu H, Ito G, Tsuchiya K, Nakamura T, Watanabe M: Hes1 promotes IL-22-Mediated epithelial regeneration through enhancement of STAT3-Dependent transcription in human intestinal epithelial cells. AGA. San Diego, 2012 年 5 月 19 日.
- 62) 渡辺 守: IBD 診療の進歩と近未来像-治る時代へ-. 第 11 回市民公開講座プログラム 炎症性腸疾患の治療をめぐる. 名古屋, 2012 年 12 月 16 日.
- 63) 油井史郎、中村哲也、渡辺 守: マウスおよびヒトの正常な腸管上皮初代培養法の確立. 第 3 回 Japan Gut Forum. 東京, 2012 年 11 月 24 日.
- 64) 渡辺 守: 腸管幹細胞を用いた消化管上皮再生. 第 14 回北関東・甲信越「GUT フォーラム」プログラム. 東京, 2012 年 11 月 24 日.

- 65) 渡辺 守: 腸管幹細胞を用いた消化管上皮再生. 第50回小腸研究会. 京都, 2012年11月10日.
- 66) 渡辺 守: ~はじめに~治療における医師と患者のギャップ調査. JDDW2012. 神戸, 2012年10月13日.
- 67) 渡辺 守: 「消化器疾患治療の最新のトピックス」大腸: 炎症性腸疾患—最近の進歩—. JDDW2012. 神戸, 2012年10月13日.
- 68) 藤井俊光、長堀正和、渡辺 守: クロウン病小腸大腸病変の評価および再燃予測におけるMRエンテロコロノグラフィー (MREC) の有用性. JDDW2012. 神戸, 2012年10月12日.
- 69) 渡辺 守: 消化器病学会特別企画1: 日本消化器病学会ガイドライン (大腸ポリープ、機能性消化管障害、NAFLD/NASH) 中間報告. JDDW2012. 神戸, 2012年10月12日.
- 70) 加納嘉人、土屋輝一郎、渡辺 守: 新たな「分化度」スケーリングを用いた大腸癌形質制御と個別化医療への可能性. JDDW2012. 神戸, 2012年10月11日.
- 71) 渡辺 守: Go beyond usual standard care in Crohn's disease management. JDDW2012. 神戸, 2012年10月11日.
- 72) 渡辺 守: IBD 治療において免疫調節薬を実際にどう使うか. JDDW2012. 神戸, 2012年10月11日.
- 73) 渡辺 守: 新しい消化管再生医療—難病克服に向けて—. 医科学術研究会. 千葉, 2012年10月4日.
- 74) 土屋輝一郎、加納嘉人、中村哲也、渡辺 守: 大腸における幹細胞維持とがん幹細胞発現機構. 第44回日本臨床分子形態学会総会・学術集会. 高知, 2012年9月28日.
- 75) 渡辺 守: 腸管幹細胞を用いた消化管上皮再生. 平成24年度第1回クリニカルサミット. 東京, 2012年9月28日.
- 76) 渡辺 守: 炎症性腸疾患における内視鏡を考え直す. OMC Gastroenterology & Hepatology Research Group カンファレンス. 大阪, 2012年9月27日.
- 77) 渡辺 守: 大腸上皮幹細胞—培養系の確立と移植への応用—. がん若手研究者ワークショップ. 蓼科, 2012年9月6日.
- 78) 藤井俊光、齊藤詠子、長堀正和、長沼 誠、大塚和朗、渡辺 守: MR enterocolonography (MREC) の実際とクローン病小腸大腸病変の評価における有用性. 第30回日本大腸検査学会総会. 東京, 2012年9月1日.
- 79) 長堀正和、藤井俊光、齊藤詠子、渡辺 守、大塚和朗: クロウン病診療における当院でのMREC (MR enterocolonography) の試み—モニタリングとしての有用性. 第30回日本大腸検査学会総会. 東京, 2012年9月1日.
- 80) 加納嘉人、土屋輝一郎、渡辺 守: 新たな分化度スケーリングを用いた大腸がん形質制御とバイオマーカーとしての可能性. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 大阪, 2012年7月27日.
- 81) 根本泰宏、金井隆典、渡辺 守: 炎症性腸疾患難治性の要因としての腸炎惹起性メモリーCD4+T細胞維持機構の解析. 第49回日本消化器免疫学会総会. 鹿児島, 2012年7月6日.
- 82) 永石宇司、山地 統、戸塚輝治、鬼澤道夫、柘植直人、鈴木雅博、金井隆典、渡辺 守: 慢性大腸炎モデルにおける腸炎惹起性T細胞の増殖はIL-7とNK細胞により制御される. 第49回日本消化器免疫学会総会. 鹿児島, 2012年7月6日.
- 83) 渡辺 守: 新しい時代に入ったIBD—考えておくべきこと—. 名古屋IBDセミナー. 名古屋, 2012年6月29日.
- 84) 長堀正和、藤井俊光、齊藤詠子、森尾純子、長沼誠、渡辺 守: 炎症性腸疾患患者における抗TNF $\alpha$ 受容体拮抗薬の選択に関する研究. 第98回日本消化器病学会総会. 東京, 2012年4月21日.
- 85) 藤井俊光、齊藤詠子、森尾純子、長堀正和、長沼誠、渡辺 守: 難治性潰瘍性大腸炎に対するTacrolimus 静注療法の有用性と安全性の検討. 第98回日本消化器病学会総会. 東京, 2012年4月21日.
- 86) 水谷知裕、中村哲也、渡辺 守: 正常小腸上皮培養細胞を用いたMDR1依存性薬剤排出機構の解析. 第98回日本消化器病学会総会. 東京, 2012年4月20日.

- 87) 渡辺 守: 日本消化器病学会大腸ポリープ診療ガイドラインを目指して. 第98回 日本消化器病学会総会. 東京, 2012年4月20日.
- 88) 本谷 聡、渡辺 守、日比紀文: 日本人クローン病患者に対するアダリムマブ長期継続投与による3年間の寛解維持効果. 第98回 日本消化器病学会総会. 東京, 2012年4月19日.
- 89) 藤井俊光、長沼 誠、渡辺 守: 抗体製剤使用炎症性腸疾患患者における血中濃度測定と中和抗体測定の意義. 第98回 日本消化器病学会総会. 東京, 2012年4月19日.
- 90) 中村哲也、渡辺 守: 単一幹細胞からの大腸上皮大量培養と細胞移植による大腸上皮再生. 第98回 日本消化器病学会総会. 東京, 2012年4月19日.
- 91) 渡辺 守: 生物製剤が炎症性腸疾患研究に与えたインパクト. 第6回 Tokyo Circulation Seminar. 東京, 2012年2月2日.
- 92) Tsuchiya K, Zheng X, Kano Y, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M: Flagellin via TLR5 on basolateral membrane of primary intestinal epithelial cells (IEC) shows the role of IEC in the response to bacteria. UEGW2011. Stockholm, 2011年10月26日.
- 93) Naganuma M, Nagahori M, Fujii T, Akiyama J, Saito E, Watanabe M: Serological test and vaccinations for Measles, Mumps, Rubella, and Varicella Zoster deserve considerations as early as possible after diagnosis of Inflammatory Bowel Disease. UEGW2011. Stockholm, 2011年10月25日.
- 94) Tsuchiya K, Kano Y, Watanabe M: The stabilization of Atoh1 protein in colorectal cancer mimics mucinous adenocarcinoma. 第70回 日本癌学会学術総会. Nagoya, 2011年10月4日.
- 95) Yui S, Nemoto Y, Mizutani T, Zheng X, Nagaishi T, Tsuchiya K, Watanabe M, Nakamura T, Okamoto R, Ichinose S, Sato T, Clevers H: Regeneration of damaged colonic tissue by transplanted colonic epithelial stem cells maintained and expanded in vitro. GI Research Academy 2011. Kyoto, 2011年6月17日.
- 96) Yui S, Nakamura T, Nemoto Y, Mizutani T, Zheng X, Ichinose S, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, Sato T, Clevers H, Watanabe M: Regeneration of Damaged Colonic Tissue by Transplantation of Colonic Epithelial Stem Cells Maintained and Expanded In Vitro. DDW2011. Chicago, 2011年5月7日.
- 97) 加納嘉人、土屋輝一郎、鄭 秀、堀田伸勝、岡本隆一、中村哲也、渡辺 守: 新たな「分化度」スケールリングを用いた大腸がん形質抑制と個別化医療への可能性. 第19回 浜名湖シンポジウム. 東京, 2011年12月23日.
- 98) 渡辺 守: 大腸上皮幹細胞一培養系の確立と移植への応用. 第8回 定例基礎棟セミナー. 東京, 2011年12月14日.
- 99) 渡辺 守: 生物製剤が炎症性腸疾患に与えたインパクト. 第54回 日本消化器内視鏡学会東海地方会. 浜松, 2011年12月10日.
- 100) 渡辺 守: 新しい時代に入ったクローン病治療を考える. 第2回 神奈川 Infliximab IBD Strategy Seminar. 横浜, 2011年12月8日.
- 101) 渡辺 守: 新しい時代に入ったクローン病治療を考え直す. 第29回 北海道クローン病検討会. 札幌, 2011年12月2日.
- 102) 渡辺 守: 炎症性腸疾患治療の新展開. 第39回 内科学の展望/第108回 日本内科学会講演会. 横浜, 2011年11月13日.
- 103) 渡辺 守: 新しい時代に入ったIBD治療を考え直す. 第19回 日本消化器病学会関東支部教育講演. 東京, 2011年11月13日.
- 104) 土屋輝一郎、鄭 秀、加納嘉人、水谷知裕、油井史郎、岡本隆一、中村哲也、渡辺 守: 小腸上皮細胞初代培養による生理的フラジェリン応答解析. 第49回 小腸研究会. 東京, 2011年11月12日.
- 105) 渡辺 守: 新しい時代に入った炎症性腸疾患を考える. 第105回 みなとセミナー. 横浜, 2011年10月27日.

- 106) 藤井俊光、長沼 誠、渡辺 守: 重症潰瘍性大腸炎に対する Hybrid Tacrolimus 療法の試み. JDDW2011. 福岡, 2011年10月23日.
- 107) 加納嘉人、土屋輝一郎、渡辺 守: Atoh1 発現大腸癌における悪性形質獲得機構解析. JDDW2011. 福岡, 2011年10月23日.
- 108) 鈴木伸治、荒木昭博、渡辺 守: 原因不明消化管出血 (OGIB) 症例におけるカプセル内視鏡に対するダブルバルーン内視鏡の有用性の検討. JDDW2011. 福岡, 2011年10月22日.
- 109) 根本泰宏、金井隆典、渡辺 守: 炎症性腸疾患病原性メモリーCD4+T 細胞は腸管粘膜から全身血流に再循環する. JDDW2011. 福岡, 2011年10月21日.
- 110) 鄭 秀、土屋輝一郎、岩崎美智子、加納嘉人、水谷知裕、油井史郎、岡本隆一、中村哲也、渡辺 守: 初代培養小腸上皮細胞による生理的フラジェリン応答解析. JDDW2011. 福岡, 2011年10月20日.
- 111) 山地 統、戸塚輝治、鬼澤道夫、柘植直人、鈴木雅博、永石宇司、金井隆典、渡辺 守: マウス腸炎モデルにおける腸炎惹起性CD4+T 細胞の増殖は IL-7 とNK 細胞により制御される. JDDW2011. 福岡, 2011年10月20日.
- 112) 長沼 誠、長堀正和、藤井俊光、秋山純子、齋藤詠子、渡辺 守: IBD 患者における風疹・麻疹・水痘・ムンプスに対する抗体価測定の意義. JDDW2011. 福岡, 2011年10月20日.
- 113) 土屋輝一郎、岡本隆一、中村哲也、渡辺 守: IBD における消化管上皮の分化制御と免疫応答. 第39回 日本臨床免疫学会総会. 東京, 2011年9月17日.
- 114) 渡辺 守: 炎症性腸疾患における内視鏡を考え直す. 山梨 IBD 講演会 2011. 甲府, 2011年9月8日.
- 115) 鈴木康平、秋山純子、藤井俊光、櫻井 幸、福田将義、吉野耕平、竹中健人、東 正新、鈴木伸治、長堀正和、長沼 誠、坂本直哉、渡辺 守、小林宏寿、杉原健一、伊藤栄作、三浦圭子: 術後に判明した空腸異所性腭炎の一例. 第16回 お茶の水消化器セミナー. 東京, 2011年8月27日.
- 116) 渡辺 守: 治りにくい炎症性腸疾患 新しい視点で緋く. 第9回 三重 IBD 研究会. 津, 2011年8月4日.
- 117) 渡辺 守: 新しい時代に入ったクローン病治療を考える. 第5回 多摩GI-Endoscopy 研究会. 東京, 2011年6月30日.
- 118) 渡辺 守: 抗TNF 製剤が炎症性腸疾患治療に与えたインパクト. 第15回 日本適応医学会学術集会. 浜松, 2011年6月25日.
- 119) 渡辺 守: 炎症性腸疾患における腸上皮自然炎症調節機構の破綻. 新学術領域:平成23年度第2回領域班会議. 東京, 2011年6月24日.
- 120) 渡辺 守: 炎症性腸疾患の病態を新しい側面から緋く. 第2回 炎症性腸疾患と免疫を語る会. 横浜, 2011年6月22日.
- 121) 渡辺 守: 新しい時代に入った炎症性腸疾患を考える. 第7回 静岡県 IBD 研究会. 静岡, 2011年6月17日.
- 122) 渡辺 守: クローン病. 第140回 日本医学会シンポジウム. 東京, 2011年6月9日.
- 123) 渡辺 守: 生物製剤がクローン病治療に与えたインパクト. 第32回 日本炎症・再生医学会. 京都, 2011年6月2日.
- 124) 渡辺 守: 炎症性腸疾患の分子標的治療. フォーラム富山「創薬」第33回 研究会. 富山, 2011年5月20日.
- 125) 藤井俊光、長沼 誠、渡辺 守: 免疫調整剤/分子生物製剤を用いた難治性潰瘍性大腸炎に対する治療戦略. 第97回 日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月15日.
- 126) 渡辺 守: クローン病に生物学的製剤をどのように使っていくのか〜いつ?誰に?何を?どのように?〜 第97回 日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月15日.
- 127) 秋山純子、長沼 誠、藤井俊光、玄 世鋒、長堀正和、渡辺 守: チオプリン、タクロリムス不応例潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブ (IFX) の検討. 第97回 日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月15日.
- 128) 渡辺 守: 生物学的製剤がもたらした新しい時代の炎症性腸疾患治療. 第97回 日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月14日.

- 129) 中村哲也、渡辺 守: 再生医療へ向けた腸管上皮研究～幹細胞体外培養と細胞移植～. 第97回日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月14日.
- 130) 渡邊聡明、渡辺 守、日比紀文: 潰瘍性大腸炎合併癌に対する診断および治療に関する現状および今後の展. 第97回日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月14日.
- 131) 長沼 誠、長堀正和、国崎玲子、木村英明、吉村直樹、酒匂美奈子、河口貴昭、高添正和、山本正二郎、松井敏幸、日比紀文、渡辺 守: 本邦におけるIBD患者の妊娠・出産の転帰に関する検討. 第97回日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月14日.
- 132) 渡辺 守: 炎症性腸疾患における免疫異常と腸上皮分化・修復・再生障害の接点. 第97回日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月13日.
- 133) 玄 世鋒、長沼 誠、渡辺 守: MRエンテロコロノグラフィ(MREC)によるクローン病の小腸大腸病変の同時評価の検討. 第97回日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月13日.
- 134) 根本泰宏、金井隆典、渡辺 守: CD4+CD45RBhighT細胞移入大腸炎マウスの病態における腸内細菌の役割. 第97回日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月13日.
- 135) 長沼 誠、藤井俊光、国崎玲子、山本慧恵、吉村直樹、高添正和、竹内義明、渡辺 守: 免疫調節薬・抗体製剤使用IBD患者におけるインフルエンザ感染症の現状. 第97回日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月13日.
- 136) 渡辺 守、本谷 聡: クローン病治療 新時代の幕開け. 第97回日本消化器病学会総会. 東京, 2011年5月13日.
- 137) Fujii T, Kanai T, Tomita T, Nemoto Y, Totsuka T, Naganuma M, Nagahori M, Watanabe M: FTY720 suppresses the Development of Colitis by Modulating the Trafficking of Colitogenic CD4+ T cells in Bone Marrow. 2010 Advances in Inflammatory Bowel Diseases Crohn's & Colitis Foundation's Clinical & Research Conference. Frolida, 2010年12月10日.
- 138) Nakamura T, Watanabe M: A long-term, fully-defined culture system for colonic epithelial cells that allows efficient expansion of stem cell compartment. The 1st JSGE International Topic Conference -Stem Cells in Digestive Organs-. Kamakura, 2010年9月10日.
- 139) Watanabe M: Novel insight into the pathogenesis of inflammatory bowel disease. International Symposium of Advances in Medical and Surgical Treatment of Colorectal disorders 10-13 de august 2010. Chile, 2010年8月12日.
- 140) Zheng X, Tsuchiya K, Okamoto R, Iwasaki M, Kano Y, Nakamura T, Watanabe M: Hes1 via Notch signaling directly suppresses Atoh1/Hath1 gene transcription, resulting in the goblet cell depletion of Ulcerative Colitis. DDW2010. New Orleans, 2010年5月3日.
- 141) Watanabe M: Key issues in the pathogenesis of UC: How much do we know? 第96回日本消化器病学会総会. Niigata, 2010年4月23日.
- 142) 長沼 誠、渡辺 守: 難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス初期投与量と血中トラフ値の推移の検討(多施設協同研究). 第52回日本消化器病学会大会. 横浜, 2010年10月14日.
- 143) 根本泰宏、金井隆典、渡辺 守: 腸炎惹起性メモリーCD4+T細胞再循環経路をターゲットとした炎症性腸疾患の治療戦略. 第52回日本消化器病学会大会. 横浜, 2010年10月14日.
- 144) 長堀正和、玄 世鋒、渡辺 守: クローン病における thioprines 併用 infliximab 計画的維持投与例の検討と、維持困難例での methotrexate の有用性. 第52回日本消化器病学会大会. 横浜, 2010年10月13日.
- 145) 渡辺 守: 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究. 難治性疾患克服研究推進事業研究成果発表会 難治性疾患克服研究の成果と今後. 東京, 2010年5月23日.
- 146) 長沼 誠、長堀正和、渡辺 守: Infliximab 時代における免疫調節剤の有用性. 第96回日本消化器病学会総会. 新潟. 2010年4月22日.
- H. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む。)
1. 特許取得(予定を含む)

渡辺 守、中村哲也：「大腸上皮幹細胞の単離・  
培養技術と、これを用いた大腸上皮移植技術」特  
願 2011-236469

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧



研究成果の刊行に関する一覧表（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
岡本隆一、渡辺 守	わが国における実態～研究班による 全国調査の結果から	武藤徹一郎	大腸疾患 NOW 2012	日本メディカルセンター	東京	25-31	2012
溝口充志、西田淳史、藤山佳秀	炎症性腸疾患の病因解明と新規治療の 将来展望 上巻「健康寿命の延伸を目指す」日本 の技術編。第4章 重点疾患対策 (がん・認知症・難病・糖尿病)	日本能率協会 総合研究所	「技術予測レポート2023」	(株)日本能率協会総合研究所	東京	270-277	2013
藤山佳秀、佐々木雅也	炎症性腸疾患に対する栄養療法（1 活動期クローン病の栄養管理、2寛 解期クローン病の栄養管理、3活動 期潰瘍性大腸炎の栄養管理、4寛解 期クローン病の栄養管理） 第4章 病態下の静脈・経腸栄養法	日本静脈経腸 栄養学会	「日本静脈経腸栄 養学会 静脈経腸 栄養ハンドブック」	(株)南江堂	東京	361-370	2011
安藤 朗、藤山佳秀	診療ガイドラインを踏まえた潰瘍性 大腸炎の内科治療 第4章 炎症性腸疾患の内科治療	日比紀文、久松 理一	「炎症性腸疾患を 日常診療で診るー IBDとは？その診 断と患者にあわせ た治療」	(株)羊土社	東京	87-93	2011
藤山佳秀、安藤 朗	病原微生物による感染論 第7章 病因・病態	日比紀文	「炎症性腸疾患」	(株)医学書院	東京	269-275	2010
三浦総一郎	吸収不良症候群	浦部晶夫、太田 健、川合眞一、 島田和幸、菅野 健太郎	今日の処方改訂第 5版	南江堂	東京	295-298	2013
渡辺知佳子、三浦総一郎	吸収不良症候群	浅香正博、菅野 健太郎、千葉 勉	消化器病学 基礎 と臨床	西村書店	東京	847-852	2013
渡辺知佳子、三浦総一郎	小腸、大腸および胃の分子標的治療	小俣政男、千葉 勉	専門医のための消 化器病学第2版	医学書院	東京	168-172	2013
三浦総一郎	虚血性大腸炎	矢崎義雄	内科学 第10版	朝倉書店	東京	1026-1028	2013
三浦総一郎	蛋白漏出性胃腸症	矢崎義雄	内科学 第10版	朝倉書店	東京	1033-1034	2013
三浦総一郎	病態栄養の基礎知識-腸管機能と栄 養	日本病態栄養 学会	病態栄養専門師の ための病態栄養ガ イドブック改訂 第4版	メディカル レビュー社	大阪	26-30	2013
三浦総一郎	クローン病	山口 徹、北原 光夫、福井次矢	2013今日の治 療指針-私はこう治 療している	医学書院	東京	452-454	2013
丸田紘史、三浦総一郎	蛋白漏出性胃腸症	菅野健太郎、上 西紀夫、井廻道 夫	消化器疾患最新の 治療2013-20 14	南江堂	東京	190-193	2013
三浦総一郎	慢性下痢、成人	馬場忠雄、山城 雄一郎	新臨牀栄養学第2 版	医学書院	東京	520-528	2012
成松和幸、三浦総一郎	吸収不良症候群	丸山千寿子、中 屋 豊	ビジュアル栄養療 法	南江堂	東京	12 18	2012
三浦総一郎、岡田義清、上田 俊秀、八月朔日秀明、穂苅量 太	Microscopic colitis の病態の解明 にむけて一疾患モデル確立の試み	渡辺 守	大腸疾患 NOW 20 12	日本メディカル センター	東京	58-62	2012
三浦総一郎	蛋白漏出性胃腸症	山口 徹、北原 光夫、福井次矢	2012今日の治 療指針	医学書院	東京	438	2012
穂苅量太、渡辺知佳子、三浦 総一郎、高本俊介	吸収不良症候群・蛋白漏出性胃腸症	山本博徳	Visual 小腸疾患診 療マニュアル	メディカル ビュー社	東京	232-239	2011
高本俊介、三浦総一郎	炎症性腸疾患患者の管理の実際 高 齢者	渡辺 守	炎症性腸疾患を究 める	メディカル ビュー社	東京	277-279	2011
渡辺知佳子、三浦総一郎	吸収不良症候群	菅野健太郎、上 西紀夫、井廻道 夫	消化器疾患最新の 治療2011-20 12	南江堂	東京	187-190	2011
穂苅量太、三浦総一郎	どこまで必要？炎症性腸疾患の生 活・食事指導	日比紀文、久松 理一	消化器 Book2 炎 症性腸疾患を日常 診療で診る	羊土社	東京	159-162	2011
渡辺知佳子、三浦総一郎	腸疾患を有する患者の栄養管理	日本病態栄養 学会	NST ガイドブック 2011	メディカル レビュー社	大阪	173-179	2011
三浦総一郎、穂苅量太、松永 久幸	セリアック病	清野 宏	臨床粘膜免疫学	シナジー	東京	393-399	2010
三浦総一郎、穂苅量太	III 免疫学的異常、III-6 接着分子の 関与（第7章病因・病態）	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	298-300	2010
三浦総一郎、穂苅量太	V 血流障害、微小循環の関与（第7 章病因・病態）	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	304-306	2010

研究成果の刊行に関する一覧表（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
藤谷幹浩、高後 裕	妊娠中の炎症性腸疾患患者における抗 TNF- $\alpha$ 抗体製剤の胎盤通過		Review of Gastroenterology & Clinical Gastroenterology and Hepatology.			22-25	2013
藤谷幹浩、高後 裕	III 消化管疾患/D. 消化管全般にわたるもの. 5. 消化管悪性リンパ腫	菅野健太郎	消化器疾患最新の治療			280-283	2013
藤谷幹浩、高後 裕	1,4-Galactosyltransferase 欠損マウスにおけるオリゴ糖の構造変化は腸炎の誘発を低減させる		Review of Gastroenterology & Clinical Gastroenterology and Hepatology.			25-29	2012
田邊裕貴, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 高後 裕	小胞体ストレス誘導性オートファジーの制御による治療の可能性を探る		分子消化器病			33-39	2012
高後 裕, 田邊裕貴, 藤谷幹浩	【炎症性腸疾患-病因解明と診断・治療の最新知見-】 炎症性腸疾患の内科的治療 炎症性腸疾患に対する新規薬剤の開発状況		日本臨床			378-382	2012
伊藤貴博, 藤谷幹浩, 盛一健太郎, 岡本耕太郎, 田邊裕貴, 前本篤男, 蘆田知史, 綾部時芳, 高後 裕	【臨床に役立つ腸管免疫学の最新のトピックス】 抗菌ペプチドによる粘膜防御システム破綻と IBD 発症		INTESTINE			429-434	2011
藤谷幹浩、盛一健太郎、高後 裕	コラム 画像強調観察③ Autofluorescence imaging (AFI)	齊藤裕輔	大腸疾患診療の Strategy			234	2010
上野伸展, 藤谷幹浩, 高後 裕	虚血性大腸炎	丹羽寛文	画像強調観察による内視鏡診断アトラス				2010
藤谷幹浩, 高後 裕	クローン病 診断基準と重症度	渡辺守	IBD(炎症性腸疾患)を究める			72-78	2010
Tomotaka Tanaka, Abbi R Saniabadi, and Yasuo Suzuki	The Diagnostic Value of Colonoscopy in Understanding Inflammatory Mucosal Damage in Patients with Ulcerative Colitis and Predicting Clinical Response to Adsorptive Leucocytapheresis as a Non-Pharmacologic Treatment Intervention.	Edited by José Joaquim da Rocha	ENDOSCOPIC PROCEDURES IN COLON AND RECTUM	INTECH	Croatia	81-94 p.	2012
鈴木康夫	内科医がみる思春期炎症性腸疾患	監修:友政剛、編集:牛島高介、大塚宜一、内田恵一	小児・思春期の IBD 診療マニュアル	診断と治療社	東京	195p.-200 p.	2013
鈴木康夫	III副作用各論—重大な副作用— 消化器 偽膜性大腸炎		日本臨床増刊号 医薬品副作用学(第2版) 薬剤の安全使用アップデート	日本臨床社	大阪	70(6):561-565p.	2012
鈴木康夫	炎症性腸疾患における血球成分吸着除去療法	監修:日比紀文, 編集:松井敏幸・三浦総一郎	日本から発信する IBD 治療の工夫と標準化	日本メディカルセンター	東京	69-85 p.	2012
鈴木康夫	消化器疾患 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)	編集主幹:泉孝英	今日の診療のために ガイドライン 外来診療 2012	日本メディカル開発	東京	426-432 p.	2012
鈴木康夫	4. 炎症性腸疾患の内科的治療 クローン病治療(総論)	編集:渡辺 守	IBD 炎症性腸疾患を極める	メディカルビュー社	東京	140-145p.	2011
味岡洋一	IV 癌化	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	242-246	2010
福島浩平、羽根田祥、佐々木 巖	大腸全摘術後残存象徴の適応現象について	佐々木巖、杉田昭、二見喜太郎	炎症性腸疾患外科治療のすべて	MEDICAL VIEW	Tokyo	118-121	2013
福島浩平、渡辺和宏、佐々木 巖	回腸囊炎 (pouchitis)	佐々木巖、杉田昭、二見喜太郎	炎症性腸疾患外科治療のすべて	MEDICAL VIEW	Tokyo	99-101	2013
福島浩平	Intestinal Adaptation following Total Proctocolectomy in Patients with Ulcerative Colitis: Lessons from Animal Models	Takami Yamaguchi	Nano-Biomedical Engineering 2012	Imperial College Press	London	333-340	2012
福島浩平、鈴木秀幸、高橋賢一	炎症性腸疾患とプロバイオティクス	日本乳酸菌学会	乳酸菌とビフィズス菌のサイエンス	京都大学学術出版会	京都	521-526	2010
福島浩平	小腸機能障害	上月正博	リハビリスタッフに求められる薬・栄養・運動の知識	南江堂	東京	212-220	2010

研究成果の刊行に関する一覧表（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
飯室正樹, 中村志郎	Crohn 病	小川聡 編	内科学書. 改訂第 8 版	中山書店	東京	141-7	2013
中村志郎	直腸-肛門に好発する炎症性疾患	下瀬川徹, 渡辺守, 木下芳一, 金子周一, 檜田博史 編.	専門医のための消化器病学. 第 2 版.	医学書院	東京	309-14	2013
樋田信幸, 松本譽之	潰瘍性大腸炎	下瀬川徹, 渡辺守, 木下芳一, 金子周一, 檜田博史 編.	専門医のための消化器病学. 第 2 版.	医学書院	東京	188-94	2013
堀 和敏, 松本譽之, 三輪洋人	IBD に伴う上部消化管病変	浅香正博, 菅野健太郎, 千葉勉 編.	消化器病学基礎と臨床. カラー版.	西村書店	東京	686-9	2013
河野友彰, 松本譽之	潰瘍性大腸炎 (UC)	佐々木巖, 杉田昭, 二見喜太郎 編.	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	12-6	2013
松本譽之	潰瘍性大腸炎	山口徹, 北原光夫, 福井次矢 総編.	今日の治療指針 2011 年版	医学書院	東京	445-7	2011
松本譽之	IBD に対する生物学的製剤	菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫 編.	消化管疾患最新の治療 2011-2012	南江堂	東京	8-11	2011
松本譽之	潰瘍性大腸炎(総論)	渡辺守 編.	IBD を究める	メジカルビュー社	東京	130-9	2011
飯室正樹, 松本譽之	長期予後	NPO 法人日本炎症性腸疾患協会 (CCFJ) 編.	クローン病の診療ガイド	文光堂	東京	100-5	2011
松本譽之	クローン病 2010, 生物学的製剤で変わったクローン病の治療	七川敬次 監.	リウマチ病セミナー XXII	永井書店	東京	191-200	2011
松本譽之	炎症性腸疾患, 潰瘍性大腸炎・クローン病	泉孝英 編.	今日の診療のためのガイドライン外来診療 2011	日経メディカル開発	東京	432-4	2011
松本譽之	クローン病	山口徹, 北原光夫, 福井次矢 総編.	今日の治療指針 2010 年版	医学書院	東京	401-2	2010
松本譽之	急性下痢, 非感染症を中心に	金澤一郎, 永井良三 総編.	今日の診断指針 第 6 版	医学書院	東京	339-41	2010
飯室正樹	カプセル内視鏡検査	松田暉, 萩原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林直子 総編.	看護学テキスト 疾病と検査	南江堂	東京	212	2010
吉田幸治	大腸内視鏡検査	松田暉, 萩原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林直子 総編.	看護学テキスト 疾病と検査	南江堂	東京	214-7	2010
中村志郎	小腸内視鏡検査	松田暉, 萩原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林直子 総編.	看護学テキスト 疾病と検査	南江堂	東京	217-20	2010
樋田信幸, 松本譽之	癌化・dysplasia のサーベイランス	日比紀文 編.	炎症性腸疾患	医学書院	東京	93-9	2010
應田義雄, 松本譽之	合併症に対する治療	日比紀文 編.	炎症性腸疾患	医学書院	東京	162-7	2010
福永 健	潰瘍性大腸炎	松田暉, 萩原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林直子 総編.	看護学テキスト 疾患と治療 II	南江堂	東京	75-8	2010
松本譽之	クローン病	松田暉, 萩原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林直子 総編.	看護学テキスト 疾患と治療 II	南江堂	東京	78-80	2010
樋田信幸	大腸ポリープ	松田暉, 萩原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林直子 総編.	看護学テキスト 疾患と治療 II	南江堂	東京	80-2	2010
樋田信幸	消化管ポリポース	松田暉, 萩原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林直子 総編.	看護学テキスト 疾患と治療 II	南江堂	東京	82-3	2010

研究成果の刊行に関する一覧表（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
飯室正樹, 松本譽之	Crohn 病	清野宏 編.	臨床粘膜免疫学	シナジー	東京	384-92	2010
飯室正樹, 松本譽之	知っておくべき疫学的情報	嶋田達哉 編.	炎症性腸疾患を日 常診療で診る	羊土社	東京	16-8	2010
福永 健	白血球除去療法の進め方	嶋田達哉 編.	炎症性腸疾患を日 常診療で診る	羊土社	東京	107-11	2010
杉田 昭, 小金井一隆, 辰巳 健志	回腸囊肛門管吻合術	佐々木巖 杉 田昭 二見喜 太郎	炎症性腸疾患の外 科治療	株式会社メジ カルビュー社	東京	45-52	2013
杉田 昭, 小金井一隆, 辰巳 健志	クローン病に合併した小腸・大腸癌 の診断と治療	佐々木巖 杉 田昭 二見喜 太郎	炎症性腸疾患の外 科治療	株式会社メジ カルビュー社	東京	231-237	2013
杉田 昭, 小金井一隆, 木村 英明	炎症性腸疾患の外科治療	戸田剛太郎, 井 廻道夫, 幕内正 敏, 白鳥敬子	先端医療シリーズ 42 消化器疾患 の最新医療 附:全 国主要消化器診療 施設一覧	先端医療技術 研究所	東京	66-71	2011
杉田 昭, 小金井一隆, 木村 英明	潰瘍性大腸炎に対する外科治療	渡辺守	IBD(炎症性腸疾患) を究める	MEDICAL VIEW	東京	212-221	2011
杉田 昭, 小金井一隆	Crohn 病に対する手術	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	190-197	2010
杉田 昭, 小金井一隆	炎症性腸疾患	渡邊昌彦, 國土 典宏, 土岐祐一 郎	消化器外科学レビ ュー2010—最 新主要文献と解説 —	株式会社 総 合医学社	東京	56-63	2010
桑原絵里加, 朝倉敬子, 武林 亨	わが国と世界の IBD 疫学の概要	佐々木巖, 杉田 昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外 科治療	メジカル ビュー	東京	pp2-5	2013
桑原絵里加, 朝倉敬子, 武林 亨	炎症性腸疾患の疫学 罹患率、有病 率、家族内発症	渡辺守	IBD 炎症性腸疾 患を究める	メジカル ビュー	東京	pp12-17	2011
朝倉敬子, 武林 亨	有病率・発病率・死亡率	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	pp248-250	2010
朝倉敬子, 武林 亨	年齢・臨床経過別頻度	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	pp251-253	2010
朝倉敬子, 武林 亨	発症因子としての生活因子	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	pp259-261	2010
渡邊秀平, 有村佳昭, 今井浩 三	炎症性腸疾患における発癌機序	日比紀文	炎症性腸疾患	日本臨床社	大阪	518-522	2012
那須野正尚, 有村佳昭, 今井 浩三	炎症性腸疾患の病因・病態 組織修 復・再生	渡辺 守	IBD(炎症性腸疾患) を究める	メジカルビュ ー社	東京	51-55	2011
那須野正尚, 今井浩三	炎症性腸疾患における癌化機序		炎症性腸疾患	医学書院	東京	330-332	2010
飯合恒夫, 畠山勝義	W型回腸囊	佐々木巖, 杉田 昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外 科治療	(株)メジカル ビュー社	東京	40-44	2013
飯合恒夫, 畠山勝義	潰瘍性大腸炎	小川 龍ほか	経静脈オーダーマ ニュアル	(株)メディカ ルレビュー社	大阪	280-287	2012
飯合恒夫, 野上 仁, 畠山勝 義	炎症性腸疾患の外科治療	斉藤裕輔, 田中 信治, 渡邊聡明	大腸疾患診療の Strategy	(株)日本メデ ィカルセンタ ー	東京	404-412	2010
飯島英樹, 辻井正彦	炎症性腸疾患の診断 2) 血液検査所見の見かた.	日比紀文, 久松 理一	炎症性腸疾患を日 常診療で診る.	羊土社	東京	45-58	2011
飯塚政弘	内科入院	福島恒男	クローン病 患者 が本当に聞きたい こと-140のQ&A (2刷)	弘文堂	東京	pp41-47, 49-52	2013
飯塚政弘	内科的治療 1. 基本的な考え方 2. 5-ASA 3. 抗菌薬、	NPO 法人日本 炎症性腸疾患 協会(CCFJ) 編	クローン病の診療 ガイド	文光堂	東京	34-40	2011
飯塚政弘	経管栄養のサンエット-A とサンエ ット-GP はどこが違うのですか?	鴨井久司, 他	ナースが悩むQ&A	メディカル レビュー社	東京	p99-102	2010
飯塚政弘	エカベトナトリウム(ガストローム) の作用機序についてお教えください		臨床のあゆみ	田辺三菱製薬 株式会社	大阪	p7-8	2010
池内浩基, 内野 基, 松岡宏 樹, 坂東俊宏, 竹末芳生, 富田 尚裕	潰瘍性大腸炎 手術手技の実際 回腸 囊肛門管吻合術 (IAA)	佐々木巖, 杉田 昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外 科治療	メジカル ビュー社	東京	32-39	2013
内野 基, 松岡宏樹, 坂東俊 宏, 広瀬 慧, 平田晃弘, 池内 浩基	CD 合併症に対する治療戦略 狭窄に 対して外科的治療を行った症例	日比紀文, 久松 理一, 松岡克善	IBD 診療ケースス タディ	日本医事 新報社	東京	94-106	2013
池内浩基, 内野 基, 松岡宏 樹, 坂東俊宏, 広瀬 慧, 平田 晃弘	CD 合併症に対する治療戦略確定診 断まで5年を要したクローン病に合 併した痔瘻癌の症例	日比紀文, 久松 理一, 松岡克善	IBD 診療ケースス タディ	日本医事 新報社	東京	107-113	2013

研究成果の刊行に関する一覧表（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
池内浩基	外科的治療	福田能啓, 奥田真珠美	外科的治療. 新版 クローンってこんな病気ー食生活から見直すー	診断と治療社	東京	90-96	2012
池内浩基	癌化の問題	福田能啓, 奥田真珠美	新版 クローンってこんな病気ー食生活から見直すー	診断と治療社	東京	125-131	2012
池内浩基, 内野 基, 松岡宏樹	Pouchitis の診断と治療法	渡辺守	IBD(炎症性腸疾患)を究める	廣濟堂	東京	238-244	2011
池内浩基, 内野 基, 松岡宏樹, 坂東俊宏, 竹末芳生, 富田尚裕	炎症性腸疾患における免疫調節剤と外科治療	杉原健一, 藤盛孝博, 五十嵐正広, 渡邊聡明	大腸疾患 NOW 2010	日本メディカルセンター	東京	225-232	2010
石黒 陽, 福田眞作	臨床力を鍛える Case study	日比 紀文	消化器 book 炎症性腸疾患を日常診療でみる	羊土社	東京	p185-188	2010
石黒 陽, 棟方昭博	潰瘍性大腸炎に対する内科的治療の実際	日比 紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	p128-134	2010
石黒 陽, 棟方昭博	治療のストラテジー、治療指針	日比 紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	p110-113	2010
大川清孝	潰瘍性大腸炎に合併した細菌性腸炎	大川清孝 清水誠治	感染性腸炎 A to Z 第2版	医学書院	東京	248-253	2012
大川清孝	直腸粘膜脱症候群	井村裕夫, 福井次矢, 辻 省次	症候群ハンドブック	中山書店	東京	288	2011
大川清孝	孤立性直腸潰瘍症候群	井村裕夫, 福井次矢, 辻 省次	症候群ハンドブック	中山書店	東京	289	2011
大川清孝, 上田 渉, 青木哲哉	潰瘍性大腸炎・クローン病の鑑別診断	渡辺 守	炎症性腸疾患を究める	メジカルビュー社	東京	102-110	2011
大川清孝, 佐野弘治	炎症性腸疾患と鑑別を要する疾患	日比紀文, 久松理一	消化器 Book02 炎症性腸疾患を日常診療で診る	羊土社	東京	80-86	2011
佐野弘治, 大川清孝, 上田 渉	急性出血性直腸潰瘍	斉藤裕輔, 田中信治, 渡辺聡明	大腸疾患診療の Strategy	日本メディカルセンター	東京	137-140	2010
松井佐織, 大川清孝, 上田 渉	Schönlein - Henoch 紫斑病	斉藤裕輔, 田中信治, 渡辺聡明	大腸疾患診療の Strategy	日本メディカルセンター	東京	180-184	2010
大川清孝, 佐野弘治	サイトメガロウイルス腸炎（潰瘍性大腸炎以外）	赤松泰次, 斉藤裕輔, 清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断 アトラス	南江堂	東京	60-63	2010
上田 渉, 大川清孝	慢性活動性 EB ウイルス感染症	赤松泰次, 斉藤裕輔, 清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	82-84	2010
大川清孝	粘膜脱症候群	赤松泰次, 斉藤裕輔, 清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	172-175	2010
大川清孝	多発する円形・不整形潰瘍	赤松泰次, 斉藤裕輔, 清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	233-236	2010
大川清孝	多発する隆起性病変	赤松泰次, 斉藤裕輔, 清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	237-240	2010
板橋道朗(東京女子医科大学 炎症性腸疾患センター・第二外科), 亀岡 信悟	腸疾患 炎症性腸疾患(総説)	渡邊昌彦, 國土典宏, 土岐祐一郎	消化器外科学レビュー2013-'14	総合医学社	東京	47-52	2013
板橋道朗(東京女子医科大学 炎症性腸疾患センター・第二外科), 亀岡信悟	IV潰瘍性大腸炎 手術手技の実際 腹腔鏡補助下手術/小開腹手術①腹腔鏡下手術操作手順	佐々木巖, 杉田昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	67-76	2013
板橋道朗(東京女子医科大学 炎症性腸疾患センター・第二外科), 亀岡信悟	IV潰瘍性大腸炎 合併症と周術期管理 長期管理	佐々木巖, 杉田昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	115-117	2013
橋本拓造, 板橋道朗, 亀岡信悟(東京女子医科大学 炎症性腸疾患センター・第二外科)	Vクローン病 退院後の術後管理	佐々木巖, 杉田昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	219-222	2013
荒木俊光, 大北喜基, 藤川裕之, 毛利靖彦, 楠 正人	重症 UC に対し手術を選択した症例	日比紀文, 久松理一, 松岡克善	IBD 診療ケーススタディ	日本医事新報社	東京	193-200	2013
楠 正人, 内田恵一, 荒木俊光	潰瘍性大腸炎に対する手術法	佐々木巖, 杉田昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	24-31	2013
大北喜基, 荒木俊光, 楠 正人	クローン病 周術期管理方法に関する多施設アンケート結果報告 Part1	佐々木巖, 杉田昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	197-202	2013
荒木俊光, 内田恵一, 楠 正人	クローン病 術後合併症への対策: 術後腸管麻痺、感染症、その他	佐々木巖, 杉田昭, 二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	209-212	2013

研究成果の刊行に関する一覧表（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
内田恵一、荒木俊光、楠 正人	小児炎症性腸疾患の手術	猪俣裕紀洋、黒田達夫、奥山宏臣	スタンダード小児外科手術	メジカルビュー社	東京	202-205	2013
荒木俊光、楠 正人	肛門病変のコントロール	日比紀文、久松理一	消化器 Book 炎症性腸疾患を日常診療で診る IBDとは？ その診断と患者にあわせた治療	羊土社	東京	136-138	2010
清水俊明	潰瘍性大腸炎－便所見－	五十嵐隆	ビジュアル 小児疾患診断のコツ	日本小児医事出版社	東京	118-9	2012
清水俊明	C r o h n病－便所見－	五十嵐隆	ビジュアル 小児疾患診断のコツ	日本小児医事出版社	東京	120-1	2012
清水俊明	血便	遠藤文夫	最新ガイドライン 準拠 小児科 診断・治療指針	中山書店	東京	535-7	2012
清水俊明	消化器管の発達	児玉浩子	小児臨床栄養学	診断と治療社	東京	10-5	2011
清水俊明	第 36 章消化器疾患 III腸・肛門疾患	五十嵐隆	小児科学改訂第 10 版	文光堂	東京	738-51	2011
清水俊明	第 36 章消化器疾患 総論	五十嵐隆	小児科学改訂第 10 版	文光堂	東京	725-32	2011
清水俊明	消化管疾患	五十嵐隆	総合小児科診療のための小児科学レビュー2010	総合医学社	東京	63-9	2010
Tanida S, Joh T.	Medical Management of Pregnant Women with Inflammatory Bowel Disease.	iConcept Press	Research on Diabetes I	iConcept Press	Hong Kong	Chapter 9 179-194	2013
藤井久男	外科治療を受ける患者へのメンタルサポートの要点と実際	佐々木巖、杉田昭、二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	238-240	2013
小山西一、藤井久男、中島祥介	IV潰瘍性大腸炎 人工肛門関連合併症	佐々木巖、杉田昭、二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	110-114	2013
二見喜太郎	(分担)クローン病 手術手技の実際 クローン病に対する手術法の歴史	佐々木巖、杉田昭、二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	pp126-131	2013
二見喜太郎、東 大二郎、永川祐二、石橋由紀子	(分担)クローン病 手術手技の実際 肛門病変	佐々木巖、杉田昭、二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	pp174-182	2013
東 大二郎、二見喜太郎、永川祐二、石橋由紀子	(分担)クローン病 合併症と周術期管理、患者ケア 周術期管理	佐々木巖、杉田昭、二見喜太郎	炎症性腸疾患の外科治療	メジカルビュー社	東京	pp191-196	2013
二見喜太郎、東 大二郎	5.炎症性腸疾患の外科的治療 クローン病肛門病変に対する外科治療	渡辺 守	IBD(炎症性腸疾患)を究める	株式会社メディカルビュー社	東京都	pp230-237	2011
二見喜太郎	第 1 章診断基準・重症度・分類 3. 肛門病変の診断基準	福島恒男	クローン病の治療ガイド	NPO 法人日本炎症性腸疾患協会 (CCFJ) 編	神奈川県	pp12-15	2011
二見喜太郎	第 5 章外科的治療 2. 肛門病変	福島恒男	クローン病の治療ガイド	NPO 法人日本炎症性腸疾患協会 (CCFJ) 編	神奈川県	pp72-76	2011
二見喜太郎	炎症性腸疾患－潰瘍性大腸炎・クローン病－	壬生隆一、川本利恵子	急性期看護実習ガイド	医学出版	東京都	pp164-170	2011
二見喜太郎	VI. 黒一んびょう肛門病変の治療	二見喜太郎	炎症性腸疾患	医学書院	東京都	pp202-206	2010
Matsumoto S, Funabashi H, Mitsuyama K	Chapter 6 : Aberrant mucosal immune responses are responsible for the development of Crohn's disease-like ileitis in SAMPl/Yit mice	Takea T	The Senescence-Accelerated Mouse (SAM) : Achievements and Future Directions	Elsevier E. V.	Amsterdam, The Netherlands	53-63	2012
光山慶一	II. 炎症性腸疾患の病因・病態 環境因子	渡辺 守	IBD 炎症性腸疾患を極める	メジカルビュー社	東京	33-39	2011
余田 篤	小児炎症性腸疾患の治療、潰瘍性大腸炎治療原則・治療指針	友政、牛島、大塚、内田	小児・思春期の IBD 診療マニュアル	診断と治療社	日本	105-111	2013
小澤平太、中村隆俊、國場幸均、池田 篤、内藤正規、佐藤武郎、三浦啓寿、筒井敦子、小倉直人、渡邊昌彦	【炎症性腸疾患のすべて-新しい治療戦略】潰瘍性大腸炎 潰瘍性大腸炎の外科治療 腹腔鏡下手術		臨床外科	医学書院	東京	1235-1241	2012
内藤正規、渡邊昌彦	【炎症性腸疾患 最近の動向】炎症性腸疾患に対する腹腔鏡下手術のエビデンス		外科治療	永井書店	大阪	52-56	2011

研究成果の刊行に関する一覧表（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
内藤正規, 佐藤武郎, 小澤平太, 池田 篤, 小倉直人, 小野里航, 中村隆俊, 渡邊昌彦	【外科医のための大腸癌の診断と治療】 大腸癌の外科治療 腹腔鏡下手術 大腸全摘術 潰瘍性大腸炎, 家族性大腸腺腫症		臨床外科	医学書院	東京	359-363	2010
渡辺憲治, 野口篤志, 鎌田紀子, 十河光栄, 山上博一, 荒川哲男	診断に難渋し、GMAの有効性をカプセル内視鏡で確認した高齢発症CD症例	日比紀文	IBD 診療ケーススタディー	日本医事新報社	東京	60-66	2013
渡辺憲治, 西下正和	colitic cancer (潰瘍性大腸炎関連 high grade dysplasia)	武藤 学, 八尾建史, 佐野 寧	NBI内視鏡アトラス	南江堂	東京	240-241	2011
渡辺憲治, 山上博一	colitic cancer (潰瘍性大腸炎関連 low grade dysplasia)	武藤 学, 八尾建史, 佐野 寧	NBI内視鏡アトラス	南江堂	東京	242-243	2011
十河光栄, 渡辺憲治, 荒川哲男	Crohn 病	松井敏幸, 松本主之, 青柳邦彦	小腸内視鏡所見から診断へのアプローチ	医学書院	東京	102-103	2011
渡辺憲治, 山上博一, 荒川哲男	炎症性腸疾患の診断/クローン病 小腸内視鏡	渡辺 守	IBD 炎症性腸疾患を究める	Medical View	東京	86-92	2011
渡辺憲治, 山上博一, 荒川哲男	小腸炎症性疾患 クローン病	山本博徳	Visual 小腸疾患診療マニュアル	Medical View	東京	94-103	2011
渡辺憲治, 山上博一, 荒川哲男	画像強調観察 NBI 炎症性腸疾患での有用性	田尻久雄, 田中信治	内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像	日本メディカルセンター	東京	118-122	2011

研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻 (号)	ページ	出版年
Esaki M, Matsumoto T, Watanabe K, Arakawa T, Naito Y, Matsuura M, Nakase H, Hibi T, Matsumoto T Nouda S, Higuchi K, Ohmiya N, Goto H, Kurokawa S, Motoya S, Watanabe M	Use of capsule endoscopy in patients with Crohn's disease in Japan: A multicenter survey.	J Gastroenterol Hepatol.	29	96-101	2014
Murano T, Okamoto R, Ito G, Nakata T, Hibiya S, Shimizu H, Fujii S, Kano Y, Mizutani T, Yui S, Akiyama-Morio J, Nemoto Y, Tsuchiya K, Nakamura T, Watanabe M	Hes1 promotes the IL-22-mediated antimicrobial response by enhancing STAT3-dependent transcription in human intestinal epithelial cells.	Biochem Biophys Res Commun.	443	840-846	2014
Hisabe T, Hirai F, Matsui T, Watanabe M	Evaluation of diagnostic criteria for Crohn's disease in Japan.	J Gastroenterol.	49	93-99	2014
Suzuki M, Motoya S, Hanai H, Matsumoto T, Hibi T, Robinson AM, Mostafa NM, Chao J, Arora V, Camez A, Thakkar RB, Watanabe M	Efficacy and safety of adalimumab in Japanese patients with moderately to severe active ulcerative colitis.	J Gastroenterol.		(Epub ahead of print)	2013
Fordham RP, Yui S, Hannan NR, Soendergaard C, Madgwick A, Schweiger PJ, Nielsen OH, Vallier L, Pedersen RA, Nakamura T, Watanabe M, Jensen KB.	Transplantation of Expanded Fetal Intestinal Progenitors Contributes to Colon Regeneration after Injury	Cell Stem Cell	13	734-744	2013
Ito G, Okamoto R, Murano T, Shimizu H, Fujii S, Nakata T, Mizutani T, Yui S, Akiyama-Morio J, Nemoto Y, Okada E, Araki A, Ohtsuka K, Tsuchiya K, Nakamura T, Watanabe M	Lineage-specific expression of Bestrophin-2 and Bestrophin-4 in human intestinal epithelial cells.	PLoS One.	8	e79693	2013
Takahara M, Nemoto Y, Oshima S, Matsuzawa Y, Kanai T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Yamamoto K, Watanabe M	IL-7 promotes long-term in vitro survival of unique long-lived memory subset generated from mucosal effector memory CD4+ T cells in chronic colitis mice.	Immunol Lett.	156	82-93	2013
Fukata N, Okazaki K, Omiya M, Matsushita M, Watanabe M; The Members of the Ministry of Health and Welfare of Japan's Inflammatory Bowel Diseases Study Group.	Hematologic malignancies in the Japanese patients with inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol.		(Epub ahead of print)	2013
Nemoto Y, Kanai T, Takahara M, Oshima S, Okamoto R, Tsuchiya K, Matsumoto S, Watanabe M	Th1/Th17-Mediated Interstitial Pneumonia in Chronic Colitis Mice Independent of Intestinal Microbiota.	J Immunol.	190	6616-6625	2013
Watanabe M, Nishino H, Samejima Y, Ota A, Nakamura S, Hibi T	Randomised clinical trial: evaluation of the efficacy of mesalazine suppositories in active ulcerative colitis patients with rectal inflammation - a placebo-controlled study.	Aliment Phar Ther.	38	264-273	2013
Hibi T, Sakuraba A, Watanabe M, Motoya S, Ito H, Sato N, Yoshinari T, Motegi K, Kinouchi Y, Takazoe M, Suzuki Y, Matsumoto T, Kawakami K, Matsumoto T, Hirata I, Tanaka S, Ashida T, Matsui T	C-reactive protein is an indicator of serum infliximab level in predicting loss of response in patients with Crohn's disease.	J Gastroenterol.		(Epub ahead of print)	2013
Watanabe M, Hanai H, Nishino H, Yokoyama T, Terada T, Suzuki Y	Comparison of QD and TID oral mesalazine for maintenance of remission in quiescent ulcerative colitis: a double-blind, double-dummy, randomized multicenter study.	Inflammatory Bowel Dis	19	1681-1690	2013
Watanabe K, Sasaki I, Fukushima K, Futami K, Ikeuchi H, Sugita A, Nezu R, Mizushima T, Kameoka S, Kusunoki M, Yoshioka K, Funayama Y, Watanabe T, Fujii H, Watanabe M, for the Surgical Research Group, the Research Committee of Inflammatory Bowel Disease, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan	Long-term Incidence and Characteristics of Intestinal Failure in Crohn's disease: A Japanese Multicenter Study.	J Gastroenterol.		(Epub ahead of print)	2013
Ohayagi M, Ohkubo T, Yagi Y, Ishibashi S, Akiyama J, Nagahori M, Watanabe M, Yokota T, Mizusawa H	Chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy in a patient with Crohn's disease.	Intern Med.	52	125-128	2013
Kano Y, Tsuchiya K, Zheng X, Horita N, Fukushima K, Hibiya S, Yamauchi Y, Nishimura T, Hinohara K, Gotoh N, Suzuki S, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M	The acquisition of malignant potential in colon cancer is regulated by the stabilization of Atonal homolog 1 protein.	Biochem Biophys Res Commun	432	175-181	2013



研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Ueno F, Matsui T, Matsumoto T, Matsuoka K, <u>Watanabe M</u> , Hibi T, on behalf of the guideline project group of intractable Inflammatory Bowel Disease granted by the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan and the Guidelines Committee of the Japanese	Evidence-based clinical practice guidelines for Crohn's disease, integrated with formal consensus of experts in Japan.	J Gastroenterol	48	31-72	2013
Naganuma M, Nagahori M, Fujii T, Morio J, Saito E, <u>Watanabe M</u>	Poor recall of prior exposure to varicella zoster, rubella, measles, or mumps in patients with IBD.	Inflamm Bowel Dis	19	418-422	2013
Naganuma M, Fujii T, Kunisaki R, Yoshimura N, Takazoe M, Takeuchi Y, Saito E, Nagahori M, Asakura K, Takebayashi T, <u>Watanabe M</u>	Incidence and characteristics of the 2009 influenza (H1N1) infections in inflammatory bowel disease patients.	Journal of Crohn's & colitis.	7	308-313	2013
Kuwahara E, Asakura K, Nishiwaki Y, Inoue N, <u>Watanabe M</u> , Hibi T, Takebayashi T	Reply to the letter by A. M. Bianco et al. regarding 'Effects of family history on IBD characteristics in Japanese patients'.	J Gastroenterol.	48	145-146	2013
Nemoto Y, Kanai T, Takahara M, Oshima S, Nakamura T, Okamoto R, Tsuchiya K, <u>Watanabe M</u>	Bone marrow-mesenchymal stem cells are a major source of interleukin-7 and sustain colitis by forming the niche for colitogenic CD4+ memory T cells.	Gut	62	1142-1152	2013
Naganuma M, Kunisaki R, Yoshimura N, Takeuchi Y, <u>Watanabe M</u>	A prospective analysis of the incidence and risk factors for opportunistic infections in patients with inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol	48	595-560	2013
Okada E, Araki A, Suzuki S, Morio Akiyama J, Fujii T, Okamoto R, <u>Watanabe M</u>	Histological diagnosis of follicular lymphoma by biopsy of small intestinal normal mucosa.	Digestive Endoscopy	25	544-546	2013
Araki A, Suzuki S, Tsuchiya K, Oshima S, Okada E, <u>Watanabe M</u>	Modified single-operator method for double-balloon endoscopy.	Dig Endosc	24	470-474	2012
Araki A, Tsuchiya K, Oshima S, Okada E, Suzuki S, Morio-Akiyama J, Fujii T, Okamoto R, <u>Watanabe M</u>	Endoscopic ultrasound with double-balloon endoscopy for the diagnosis of inverted Meckel's diverticulum: a case report.	J Med Case Rep	6	328	2012
Fujita K, Naganuma M, Saito E, Suzuki S, Araki A, Negi M, Kawachi H, <u>Watanabe M</u>	Histologically confirmed IgG4-related small intestinal lesions diagnosed via double balloon enteroscopy.	Dig Dis Sci	57	3303-3308	2012
Hibi T, Sakuraba A, <u>Watanabe M</u> , Motoya S, Ito H, Motegi K, Kinouchi Y, Takazoe M, Suzuki Y, Matsumoto T, Kawakami K, Matsumoto T, Hirata I, Tanaka S, Ashida T, Matsui T	Retrieval of serum infliximab level by shortening the maintenance infusion interval is correlated with clinical efficacy in Crohn's disease.	Inflamm Bowel Dis	18	1480-1487	2012
Kuwahara E, Asakura K, Nishiwaki Y, Inoue N, <u>Watanabe M</u> , Hibi T, Takebayashi T	Effects of family history on inflammatory bowel disease characteristics in Japanese patients.	J Gastroenterol	47	961-968	2012
Mizutani T, Nakamura T, Morikawa R, Fukuda M, Mochizuki W, Yamauchi Y, Nozaki K, Yui S, Nemoto Y, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, <u>Watanabe M</u>	Real-time analysis of P-glycoprotein-mediated drug transport across primary intestinal epithelium three-dimensionally cultured in vitro.	Biochem Biophys Res Commun	419	238-243	2012
Ono Y, Kanai T, Sujino T, Nemoto Y, Kanai Y, Mikami Y, Hayashi A, Matsumoto A, Takaishi H, Ogata H, Matsuoka K, Hisamatsu T, <u>Watanabe M</u> , Hibi T	T-helper 17 and interleukin-17-producing lymphoid tissue inducer-like cells make different contributions to colitis in mice.	Gastroenterology	143	1288-1297	2012
<u>Watanabe M</u> , Hibi T, Lomax KG, Paulson SK, Chao J, Alam SS, Camez A	Adalimumab for the Induction and Maintenance of Clinical Remission in Japanese Patients With Crohn's Disease.	J Crohns Colitis	6	160-173	2012
Watanabe T, Sasaki I, Sugita A, Fukushima K, Futami K, Hibi T, <u>Watanabe M</u>	Interval of less than 5 years between the first and second operation is a risk factor for a third operation for Crohn's disease.	Inflamm Bowel Dis	18	17-24	2012
Watanabe T, Sasaki I, Sugita A, Fukushima K, Futami K, Hibi T, <u>Watanabe M</u>	Time trend and risk factors for reoperation in Crohn's disease in Japan.	Hepatogastroenterology	59	1081- 1086	2012
Yui S, Nakamura T, Sato T, Nemoto Y, Mizutani T, Zheng X, Ichinose S, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, Clevers H, <u>Watanabe M</u>	Functional engraftment of colon epithelium expanded in vitro from a single adult Lgr5+ stem cell.	Nat Med	18	618-623	2012

研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻 (号)	ページ	出版年
Yamaji O, Nagaishi T, Totsuka T, Onizawa M, Suzuki M, Tsuge N, Hasegawa A, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Arase H, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	The development of colitogenic CD4+ T cells is regulated by IL-7 in collaboration with NK cell function in a murine model of colitis.	J Immunol	188	2524-2536	2012
<u>Watanabe M</u> , Hibi T, Lomax KG, Paulson SK, Chao J, Alam M.S, Camez AC	Adalimumab for the Induction and Maintenance of Clinical Remission in Japanese Patients With Crohn's Disease	J Crohns Colitis	6	160-173	2012
Nemoto Y, Kanai T, Shinohara T, Ito T, Nakamura T, Okamoto R, Tsuchiya K, Lipp M, Eishi Y, <u>Watanabe M</u>	Luminal CD4+ T cells penetrate gut epithelial monolayers and egress from lamina propria to blood circulation.	Gastroenterology	141	2130-2139	2011
Watanabe T, Ajioka Y, Matsumoto T, Tomotsugu N, Takebayashi T, Inoue E, Iizuka B, Igarashi M, Iwao Y, Ohtsuka K, Kudo SE, Kobayashi K, Sada M, Matsumoto T, Hirata I, Murakami K, Nagahori M, Watanabe K, Hida N, Ueno F, Tanaka S, <u>Watanabe M</u> , Hibi T	Target biopsy or step biopsy? Optimal surveillance for ulcerative colitis: a Japanese nationwide randomized controlled trial.	J Gastroenterol	46	11-16	2011
Watanabe T, Kobunai T, Yamamoto Y, Ikeuchi H, Matsuda K, Ishihara S, Nozawa K, Iinuma H, Kanazawa T, Tanaka T, Yokoyama T, Konishi T, Eshima K, Ajioka Y, Hibi T, <u>Watanabe M</u> , Muto T, Nagawa H	Predicting ulcerative colitis-associated colorectal cancer using reverse-transcription polymerase chain reaction analysis.	Clin Colorectal Cancer	10	134-141	2011
Watanabe T, Kobunai T, Ikeuchi H, Yamamoto Y, Matsuda K, Ishihara S, Nozawa K, Iinuma H, Kanazawa T, Tanaka T, Yokoyama T, Konishi T, Eshima K, Ajioka Y, Hibi T, <u>Watanabe M</u> , Muto T, Nagawa H	RUNX3 copy number predicts the development of UC-associated colorectal cancer.	International Journal of Oncology	38	201-207	2011
Hyun SB, Kitazume Y, Nagahori M, Toriihara A, Fujii T, Tsuchiya K, Suzuki S, Okada E, Araki A, Naganuma M, <u>Watanabe M</u>	MR enterocolonography is useful for simultaneous evaluation of small and large intestinal lesions in Crohn's disease.	Inflam Bowel Dis	17	1063-1072	2011
Watanabe T, Sasaki I, Sugita A, Fukushima K, Futami K, Hibi T, <u>Watanabe M</u>	Interval of less than 5 years between the first and second operation is a risk factor for a third operation for Crohn's disease.	Inflam Bowel Dis	18	17-24	2011
Naganuma M, Kunisaki R, Yoshimura N, Nagahori M, Yamamoto H, Kimura H, Sako M, Kawaguchi T, Takazoe M, Yamamoto S, Matsui T, Hibi T, <u>Watanabe M</u>	Conception and pregnancy outcome in women with inflammatory bowel disease: A multicentre study from Japan	Journal of Crohn's and Colitis	5	317-323	2011
Naganuma M, <u>Watanabe M</u> , Hibi T	The use of traditional and newer calcineurin inhibitors in inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol	46	129-137	2011
Zheng X, Tsuchiya K, Okamoto R, Iwasaki M, Kano Y, Sakamoto N, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	Suppression of hath1 gene expression directly regulated by hes1 via notch signaling is associated with goblet cell depletion in ulcerative colitis.	Inflam Bowel Dis	11	2251-2260	2011
D'Haens GR, Panaccione R, Higgins PD, Vermeire S, Gassull M, Chowers Y, Hanauer SB, Herfarth H, Hommes DW, Kamm M, Löfberg R, Quary A, Sands B, Sood A, Watermayer G, Lashner B, Lémann M, Plevy S, Reinisch W, Schreiber S, Siegel C, Targan S, <u>Watanabe M</u> , Feagan B, Sandborn WJ, Colombel JF, Travis S	The London Position Statement of the World Congress of Gastroenterology on Biological Therapy for IBD With the European Crohn's and Colitis Organization: When to Start, When to Stop, Which Drug to Choose, and How to Predict Response?	Am J Gastroenterol	106	199-212	2011
Naganuma M, <u>Watanabe M</u> , Hibi T	Safety and usefulness of balloon endoscopy in Crohn's disease patients with postoperative ileal lesions.	J Crohns Colitis	5	73-74	2011
Iwasaki M, Tsuchiya K, Okamoto R, Zheng X, Kano Y, Okamoto E, Okada E, Araki A, Suzuki S, Sakamoto N, Kitagaki K, Akashi T, Eishi Y, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	Longitudinal cell formation in the entire human small intestine is correlated with the localization of Hath1 and Klf4.	J Gastroenterol	46	191-202	2011
Shinohara S, Nemoto Y, Kanai T, Kameyama K, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Totsuka T, Ikuta K, <u>Watanabe M</u>	Upregulated IL-7R $\alpha$ expression on colitogenic memory CD4+ T cells may participate in the development and persistence of chronic colitis. (in press)	J Immunol	186	2623-2632	2011

研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻 (号)	ページ	出版年
Kameyama K, Nemoto Y, Kanai T, Shinohara T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Sakamoto N, Totsuka T, Hibi T, <u>Watanabe M</u>	Il-2 is positively involved in the development of colitogenic CD4(+) Il-7Ralpha (high) memory T cells in chronic colitis.	Eur J Immunol	40	2423-2436	2010
Akiyama J, Okamoto R, Iwasaki M, Zheng X, Yui S, Tsuchiya K, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	Delta-like 1 expression promotes goblet cell differentiation in Notch-inactivated human colonic epithelial cells.	Biochemical and Biophysical Research Communications	393	662-667	2010
Oketani M, Ido A, Uto H, <u>Tsubouchi H.</u>	Prevention of hepatitis B virus reactivation in patients receiving immunosuppressive therapy or chemotherapy.	Hepatol Res	42	627-636	2012
桶谷 真, 坪内博仁	「B型肝炎再活性化による劇症肝炎の現状と対策」	日本消化器病学会雑誌	107	1426-1433	2010
Iwashita Y, Sakiyama T, Musch MW, Ropeleski MJ, <u>Tsubouchi H</u> , Chang EB.	Polyamines mediate glutamine-dependent induction of the intestinal epithelial heat shock response.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	301(1)	G181-187	2011
Hashimoto S, Uto H, Kanmura S, Sakiyama T, Oku M, Iwashita Y, Ibusuki R, Sasaki F, Ibusuki K, Takami Y, Moriuchi A, Oketani M, Ido A, <u>Tsubouchi H.</u>	Human neutrophil peptide-1 aggravates dextran sulfate sodium-induced colitis.	Inflamm Bowel Dis	18(4)	667-675	2011
Kanmura S, Uto H, Sato Y, Kumagai K, Sasaki F, Moriuchi A, Oketani M, Ido A, Nagata K, Hayashi K, Stuver SO, <u>Tsubouchi H.</u>	The complement component C3a fragment is a potential biomarker for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol	45(4)	459-467	2010
Takami Y, Uto H, Tamai T, Sato Y, <u>Ishida Y, Morinaga H, Sakakibara Y, Moriuchi A, Oketani M, Ido A, Nakajima T, Okanoue T, Tsubouchi H.</u>	Identification of a novel biomarker for oxidative stress induced by hydrogen peroxide in primary human hepatocytes using the 2-nitrobenzene sulfenyl chloride isotope labeling method.	Hepatol Res	40	438-445	2010
Uto H, Kanmura S, Takami Y, <u>Tsubouchi H.</u>	Clinical proteomics for liver disease: a promising approach for discovery of novel biomarkers.	Proteome Sci	8	70	2010
<u>上野文昭</u>	潰瘍性大腸炎の治療指針	胃と腸	48	665-671	2013
Ueno F, Matsui T, Matsumoto T, et al.	Evidence-based clinical practice guidelines for Crohn's disease, integrated with formal consensus of experts in Japan.	J Gastroenterol	48	31-72	2012
<u>上野文昭</u>	IBD診療ガイドラインの作成手順-コンセンサスのとり方を含めて-	IBD Research	6	53-56	2012
<u>上野文昭</u>	クローン病・潰瘍性大腸炎の診療ガイドラインの特徴と活用法	日本臨床	70	635-638	2012
<u>上野文昭</u>	診療ガイドラインに則った基本的な内科的治療方針	Intestine	15	205-210	2011
<u>上野文昭</u>	潰瘍性大腸炎における 5-ASA 製剤開発の変遷-エビデンスからの考察-	新薬と臨床	59	2241-2255	2010
<u>上野文昭</u>	潰瘍性大腸炎の治療指針	消化器の臨床	13	19-24	2010
<u>上野文昭</u>	クローン病診療ガイドラインの使用法	IBD Research	4	48-52	2010
Hibi T, <u>Ueno F</u> , Matsuoka K, et al.	Guidelines for the management of ulcerative colitis in Japan	IBD Research	4	190-239	2010
Nonaka M, Imaeda H, Matsumoto S, Yong Ma B, Kawasaki N, Mekata E, Andoh A, Saito Y, Tani T, <u>Fujiyama Y</u> , Kawasaki T.	Mannan-binding protein, a C-type serum lectin, recognizes primary colorectal carcinomas through tumor-associated Lewis glycans.	J Immunol.	2014 Jan 3	Epub ahead of print	2014
Nishida N, Sasaki M, Kurihara M, Ichimaru S, Wakita M, Bamba S, Andoh A, <u>Fujiyama Y</u> , Amagai T.	Changes of energy metabolism, nutritional status and serum cytokine levels in patients with Crohn's disease after anti-tumor necrosis factor- $\alpha$ therapy.	J Clin Biochem Nutr.	25(6)	632-3	2013
Andoh A, Kobayashi T, Kuzuoka H, Suzuki Y, Matsui T, Nakamura S, Matsumoto T, <u>Fujiyama Y</u> , Bamba T	Data mining analysis of terminal restriction fragment length polymorphism shows geographical differences in the human gut microbiota	Biomedical Reports:559-562	1(4)	559-562	2013
Imaeda H, Bamba S, Takahashi K, Fujimoto T, Ban H, Tsujikawa T, Sasaki M, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Relationship between serum infliximab trough levels and endoscopic activities in patients with Crohn's disease under scheduled maintenance treatment.	J Gastroenterol.	2013 May 11	Epub ahead of print	2013
Takahashi K, Imaeda H, Fujimoto T, Ban H, Bamba S, Tsujikawa T, Sasaki M, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Regulation of Eotaxin-3/CCL26 Expression by Th2 Cytokines in human Colonic Myofibroblasts.	Clin Exp Immunol.	173(2)	323-31	2013

研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻 (号)	ページ	出版年
Imaeda H, Takahashi K, Fujimoto T, Kasumi E, Ban H, Bamba S, Sonoda H, Shimizu T, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Epithelial expression of interleukin-37b in inflammatory bowel disease.	Clin Exp Immunol.	172(3)	410-6	2013
Imaeda H, Takahashi K, Fujimoto T, Bamba S, Tsujikawa T, Sasaki M, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Clinical utility of newly developed immunoassays for serum concentrations of adalimumab and anti-adalimumab antibodies in patients with Crohn's	J Gastroenterol.	2013 Apr 11.	Epub ahead of print	2013
Fujimoto T, Imaeda H, Takahashi K, Kasumi E, Bamba S, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Decreased abundance of Faecalibacterium prausnitzii in the gut microbiota of Crohn's disease.	J Gastroenterol Hepatol.	28(4)	613-9	2013
Okuyama Y, Andoh A, Nishishita M, Fukunaga K, Kamikozuru K, Yokoyama Y, Ueno Y, Tanaka S, Kuge H, Yoshikawa S, Sugahara A, Anami E, Munetomo Y, Watanabe C, <u>Fujiyama Y</u> , Matsumoto T.	Multicenter prospective study for clinical and endoscopic efficacies of leukocytapheresis therapy in patients with ulcerative colitis.	Scand J Gastroenterol.	48(4)	412-8	2013
Imaeda H, Fujimoto T, Takahashi K, Kasumi E, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Terminal-restriction fragment length polymorphism (T-RFLP) analysis for changes in the gut microbiota profiles of indomethacin- and rebamipide-treated mice.	Digestion	86(3)	250-7	2012
Aomatsu T, Imaeda H, Takahashi K, Fujimoto T, Kasumi E, Yoden A, Tamai H, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Tacrolimus (FK506) suppresses TNF- $\alpha$ -induced CCL2 (MCP-1) and CXCL10 (IP-10) expression via the inhibition of p38 MAP kinase activation in human colonic myofibroblasts.	Int J Mol Med.	30(5)	1152-8	2012
Araki Y, Bamba T, Mukaisho KI, Kanauchi O, Ban H, Bamba S, Andoh A, <u>Fujiyama Y</u> , Hattori T, Sugihara H.	Dextran sulfate sodium administered orally is depolymerized in the stomach and induces cell cycle arrest plus apoptosis in the colon in early mouse colitis.	Oncol Rep.	28(5)	1597-605	2012
Bamba S, Andoh A, Imaeda H, Ban H, Kobori A, Mochizuki Y, Shioya M, Nishimura T, Inatomi O, Sasaki M, Saitoh Y, Tsujikawa T, <u>Fujiyama Y</u> .	Prognostic factors for colectomy in refractory ulcerative colitis treated with calcineurin inhibitors.	Exp Ther Med.	4(1)	99-104	2012
Aomatsu T, Imaeda H, Fujimoto T, Takahashi K, Yoden A, Tamai H, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Terminal Restriction Fragment Length Polymorphism Analysis of the Gut Microbiota Profiles of Pediatric Patients with Inflammatory Bowel Disease.	Digestion	86(2)	129-135	2012
Andoh A, Kuzuoka H, Tsujikawa T, Nakamura S, Hirai F, Suzuki Y, Matsui T, <u>Fujiyama Y</u> , Matsumoto T.	Multicenter analysis of fecal microbiota profiles in Japanese patients with Crohn's disease.	J Gastroenterol.	47(12)	1298-307	2012
Bamba S, Andoh A, Ban H, Imaeda H, Aomatsu T, Kobori A, Mochizuki Y, Shioya M, Nishimura T, Inatomi O, Sasaki M, Saitoh Y, Tsujikawa T, Araki Y, <u>Fujiyama Y</u>	The Severity of Dextran Sodium Sulfate-Induced Colitis Can Differ Between Dextran Sodium Sulfate Preparations of the Same Molecular Weight Range.	Dig Dis Sci	57(2)	327-34	2012
Imaeda H, Andoh A, <u>Fujiyama Y</u> .	Development of a new immunoassay for the accurate determination of anti-infliximab antibodies in inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol.	47(2)	136-43	2012
Takedatsu H, Mitsuyama K, Mochizuki S, Kobayashi T, Sakurai K, Takeda H, <u>Fujiyama Y</u> , Koyama Y, Nishihira J, Sata M.	A New Therapeutic Approach Using a Schizophyllan-based Drug Delivery System for Inflammatory Bowel Disease.	Mol Ther	20(6)	1234-41	2012
Imaeda H, Nishida A, Inatomi O, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	Expression of interleukin-24 and its receptor in human pancreatic myofibroblasts.	Int J Mol Med.	28(6)	993-9	2011
Imaeda H, Andoh A, Aomatsu T, Uchiyama K, Bamba S, Tsujikawa T, Naito Y, <u>Fujiyama Y</u> .	Interleukin-33 suppresses Notch ligand expression and prevents goblet cell depletion in dextran sulfate sodium-induced colitis.	Int J Mol Med.	28(4)	573-8	2011
Aomatsu T, Imaeda H, Matsumoto K, Kimura E, Yoden A, Tamai H, <u>Fujiyama Y</u> , Mizoguchi E, Andoh A.	Faecal chitinase 3-like-1: a novel biomarker of disease activity in paediatric inflammatory bowel disease.	Aliment Pharmacol Ther.	34(8)	941-8	2011
Ban H, Bamba S, Imaeda H, Inatomi O, Kobori A, Sasaki M, Tsujikawa T, Andoh A, <u>Fujiyama Y</u> .	The DPP-IV inhibitor ER-319711 has a proliferative effect on the colonic epithelium and a minimal effect in the amelioration of colitis.	Oncol Rep.	25(6)	1699-703	2011
Nonaka M, Ma BY, Imaeda H, Yamaguchi K, Kawasaki N, Hodohara K, Kawasaki N, Andoh A, <u>Fujiyama Y</u> , Kawasaki T.	Dendritic cell-specific intercellular adhesion molecule 3-grabbing non-integrin (DC-SIGN) recognizes a novel ligand, Mac-2-binding protein, characteristically expressed on human colorectal carcinomas.	J Biol Chem.	286(25)	22403-13	2011